

これからのDX時代に習得・学ぶべきこと



テクノロジー

AI フィンテック ブロックチェーン
自動運転 ゲノムテクノロジー



ビジネスモデル

サブスク フリーミアム
シェアリングエコノミー D2C



社会情勢

採用難 コロナウイルス
スタートアップ提携 リモートワーク

世界の変化と技術の最新動向をキャッチアップし
自社ビジネスに紐づけ活用できる力を身につける

データ駆動におけるビジネスモデル変革の重要性

現実社会で起こっていることを
データ化・分析・活用して
ビジネス上の**生産性**や**効率性**を上げたり
新しい価値を創造する

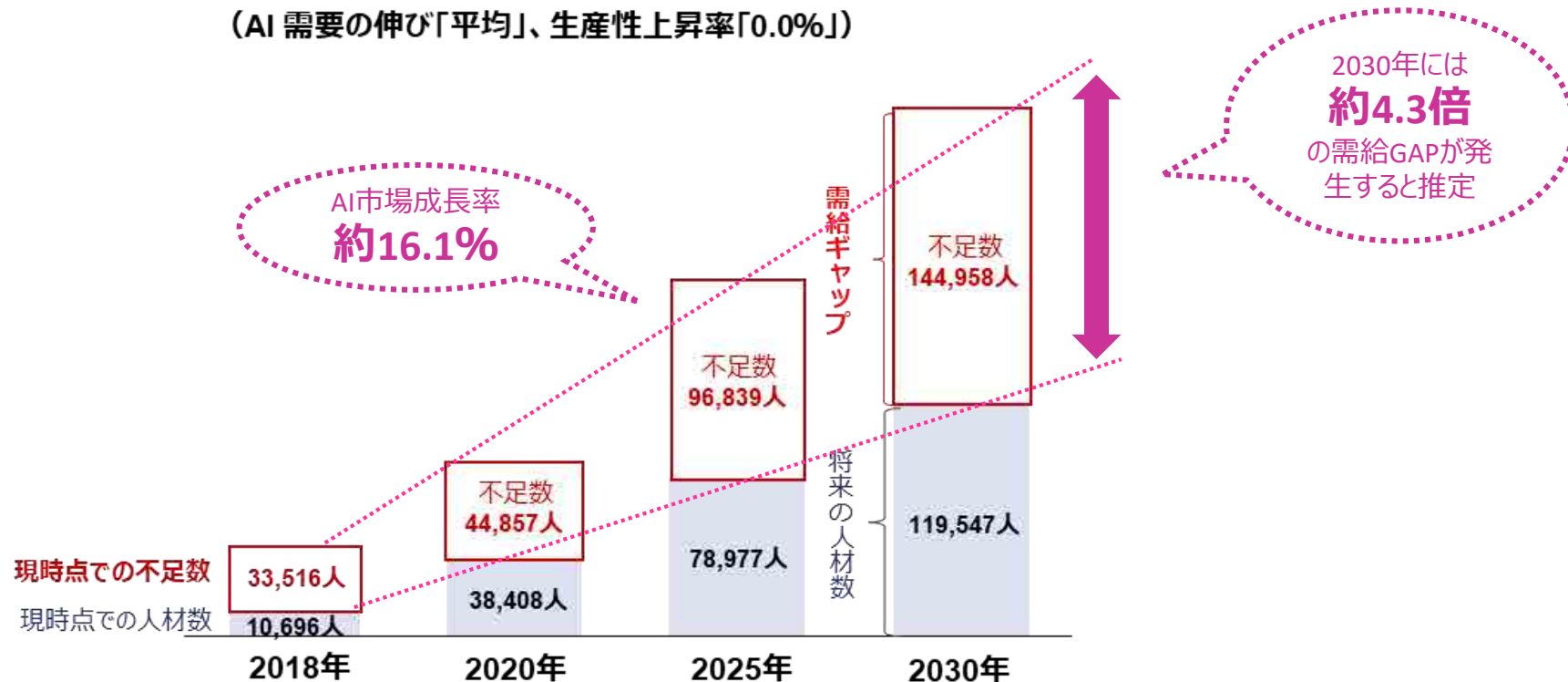


市場成長の促進に向けて人材不足が喫緊の課題

経済産業省の調査によれば、今後市場拡大が予想されるデータ活用人材（ビックデータ、IoT、人工知能など）は2020年時点で**4.5万人**、2030年で**14.5万人**が不足すると試算されている

AI 人材全体の需給についての試算結果

(AI 需要の伸び「平均」、生産性上昇率「0.0%」)



データ活用人材の育成ニーズの概況

他国より遅れるIT人材の育成環境

- 会社の教育・研修や自己研鑽支援制度に対する満足度が低い
- 自主的に勉強していると回答した割合も低い（主要国比較）
- 自己学習できる人の割合は12.6%
- **8割はきっかけや動機や仕組みがないと学ばない**

企業と個人が抱える課題

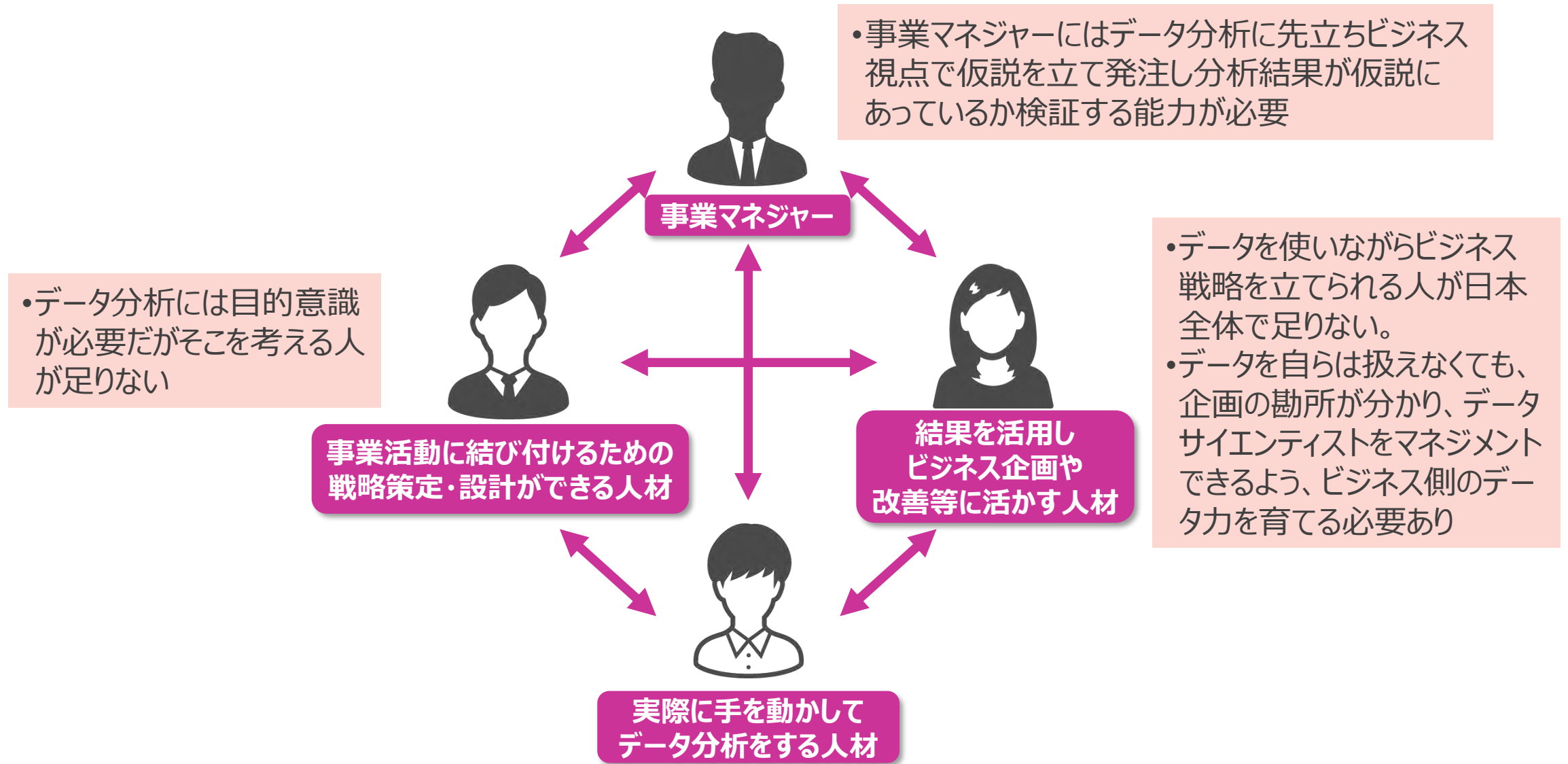
- 教育・研修を自社だけで提供することはもはや困難（企業）
- **外部を活用する際の選球眼**と長期の人材育成プランの必要性（企業）
- 企業に頼るだけでなく、自ら学習機会を模索し活用する必要性（個人）

拡大する個人ニーズと外部研修ニーズ

- 専任のデータサイエンティスト育成だけでなく、**一般職を含むエントリー層**に向けたデータ活用スキル・経験値の充足を目的とした人材育成ニーズも増加
- **DXを推進する立場**としてのデータ活用リテラシー習得のニーズも顕著に

参考：経済産業省「ITベンチャー等によるイノベーション促進のための人材育成・確保モデル事業」

企業が求めるデータ活用人材の役割



DX時代に必要となるデータ活用人材の階層別役割

DX推進者

先端技術やデータ活用を踏まえた事業モデルを経営視点で創出・運営できる



事業マネジャー



事業活動に結び付けるための戦略策定・設計ができる人材



結果を活用しビジネス企画や改善等に活かす人材

一般スタッフ

データ活用スキルを持ち、効率的に自身のタスク遂行ができる



営業・マーケティング



工場・製造



コールセンター

データ分析実務者

ビジネス課題に対し専門知識とスキルを駆使し専任でデータ分析業務を遂行できる



データサイエンティスト



実際に手を動かしてデータ分析をする人材



AIエンジニア



今やビジネスユーザーが身につけるべきリテラシーとスキル



多くの企業が一般社員含めた人材育成に着手

ビジネス部門にデータ活用人材を増やすには 某メガバンクの選択

DXの実現に向け重要度をます「データ活用」。選任のデータサイエンティスト育成と同じくらい、あるいはそれ以上に重要なのが、**一般社員がデータ活用できる下地を作り上げる**こと。データ活用の民主化にむけ全社的なリテラシアップを目指す。

e-Learningによる社員教育をスタート。極力数式を使わず統計用語を多用せず、現場の行員がイメージしやすい事例採用。より深掘りした分析手法の講義とケーススタディを集合研修で実施。データ活用のPoCを開始した部門や、レポート業務の改善に取り組む部門が出てきている。

データドリブン企業を目指す某大手生保 カギになるデジタル人材育成の手法

特定の分析担当者だけでなく、現場で日々活動している、業務ドメインに通じた社員も巻き込んだデータ活用体制を構築することが必須。**あらゆる社員がデータに関する基礎知識と活用**に向けたマインドセットを獲得することが効果的なデータ活用を進める前提条件。

所属部署や担当する業務は問わず、有志を募って**全社向けのデータサイエンス基礎研修を実施**。データを活用することで業務がどう変わり、どのようなことが可能になるかを実例を挙げて体験。データ活用推進のポイントは分析担当者に対し現場の課題を具体的に伝えられるブリッジ人材の存在。その育成に大きな手応えを感じた。

本日のアジェンダ

1. BrainPadの紹介

2. DX時代のデータ活用人材の方向性

3. 支援事例

役割に応じた人材育成方針

STEP1 重要性の啓蒙

STEP2 基礎知識の習得

STEP3 実践・活用

DX推進者

先端技術やデータ活用を踏まえた事業モデルを経営視点で創出・運営できる

一般スタッフ

データ活用スキルを持ち、効率的に自身のタスク遂行ができる

データ分析実務者

ビジネス課題に対し専門知識とスキルを駆使し専任でデータ分析業務を遂行できる

- ・データ活用に取り組む重要性の啓蒙/文化醸成
- ・データ活用の先進事例やデータ分析・統計の基本コンセプトを習得

- ・統計知識に基づき統計データを解釈、データ解析するための基礎知識を養う
- ・統計検定2～3級レベルに該当し、PPDACサイクルのフェーズに対応したコンテンツを受講

- ・習得した知識を、実業務で使えるスキルに昇華
- ・ビジネス上の目的に沿ったデータ分析の設計から作業の一連の流れを理解し実践できるプログラム受講

- ・専門的な統計学/機械学習などのデータサイエンススキルの習得
- ・自社ビジネスの課題に応じたカスタマイズ演習を通じた専門的な実践力の習得